

お金持ちになりたい若者

むかし、むかし、びんぼうな村に お金持ちになりたい若者が
住んでいた。お父さんのやさい畑に 毎日働いて、毎週は村の
市に やさいを売りに 持って行きました。でも、のうぎょうするの
が
きらいで、やさいが 大きらいでした!

ある日、若者が お父さんのやさいを 売っている時、知らぬ
美人が 村のこじきに 何かかがやいていたものを 上げたのを
見ました。 お金持ちになりたい若者が やさいを 落して、こじきの
ほうへ 走った、でも着いた時、美人が いなくなりました。

「へえー? どこに行ったんだろう? そのもらったのものを
見せろ!」と こじきに 言いました。そして、若者は こじきに 手を
開けさせました。

手の中には、何か あるんでしょう? 小さい変な形の何も
書いてない金貨が 三こ ありました。「やった!」と言いました。

若者が 金貨をとるところに、ガリガリの音を 聞いて、
顔を上げて、美人を見ました。

「あ、美人について行ったら、宝を見つけるでしょう。」と
と思い、そうすることにしました。

美人は、村に出て、森を歩きました。そして、美人は
洞穴の近くも見回して、またいなくなりました。

「あれ？ また？ ええー あの洞穴は…。」

ちょうどその時、若者は遠い場所から女の声が
聞こえました。

「あ？ 美人かな？ でも、なぜ…。」

若者は、声のほうへ速く走ったが、そこへ着いた時、
だれもいませんでした。洞穴のほうへ行っている時、また
声が聞こえました。

「あ、いたずらだ。宝は、洞穴にあるんだろう。」

でも、あちらで美人を見ました！ また声のほうへ
走りました、でも着いた時にだれもいませんでした。しかし
この時、やがに消えて行く赤い尾を見ました。

「ははあ！ きつねだ！ 必ず宝は洞穴にあるんだ！」
と言いながら、洞穴まで風のように走りました。

若者は、速く洞穴をさがしてから、注意ぶかく
見回しました、でも洞穴の中には きつねや宝やほかの

何も見つけることができませんでした。洞穴の前には、
花はなくて小さい草花が一ぽんしか見つけることができ
ませんでした。

「はかもの？」と若者が言いました。「どうしてきつねは
金貨がいるのだろう？ きつねは金貨がいない！」

それから、若者は家に帰りました。

今夜、洞穴の前にある草花が咲きました。

とてもきれいだったので、きつねが見に来ました。

そして、その花びらはぜんぶこ金でした。

終り